

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月8日

【評価実施概要】

事業所番号	0970800413		
法人名	医療法人社団 星野会		
事業所名	認知症高齢者グループホームまゆ		
所在地	栃木県小山市犬塚88番1 (電話) 0285-25-8217		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成22年1月27日	評価確定日	平成22年3月8日

【情報提供票より】(平成21年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年3月31日, 平成12年12月1日, 平成15年2月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	6 人	常勤5人(兼務1人), 非常勤1人, 常勤換算5.25人	
	6 人	常勤5人, 非常勤1人, 常勤換算5.75人	
	8 人	常勤7人, 非常勤1人, 常勤換算7.75人	

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	1階建ての1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1,260円×日数	その他の経費(月額)	<ul style="list-style-type: none"> ・光熱水費—500円/日 ・用度品賃借料—500円/日(持込の場合無料) ・諸経費—320円/日 ・理美容代—1,000円 ・おむつ代—40円~170円(種類により) 	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,380 円	

(4) 利用者の概要(平成21年12月1日現在)

利用者人数	27 名	男性	5 名	女性	22 名
要介護1	8 名	要介護2	6 名		
要介護3	12 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	1 名		
年齢	平均 85 歳	最低	72 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	星野病院, 暁クリニック, 星野歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは小山市の北東部に位置しており、周囲には工業団地や住宅街、ショッピングセンター等がある便利で閑静な場所にある。地域医療に取り組んできた医療法人が経営母体となっており、敷地内には協力医療機関であるクリニックや介護老人保健施設、知的障害者授産施設があり、医療面や災害時のバックアップ体制等が構築されているなど、同法人事業所と効果的に連携している。ホームでは「利用者が主体である生活プランを立てる、自発性を引き出す、自立性を引き出す」を基本理念としており、入居者本位の生活支援に努めている。また、運営者は「職員は宝」と考えており、介護福祉士及び社会福祉士等の資格取得には、勉強会を実施するなど職員の人材育成や研修の充実に取り組んでいるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価結果における改善点等への取り組みについては、職員間でも常時話し合っており、地域との連携の方法等についての検討を重ねている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価については、評価の意義とねらいについて運営者、管理者、職員等で話し合いを行い、その後、全職員が自己評価に取り組み、最終的に管理者がまとめあげている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>民生委員、地域包括支援センター職員、家族代表、施設OBの顧問等を構成員として、2か月に1回開催している。会議ではホームの活動状況等の報告を行っている他、家族からは食事の内容等についての意見が出され、各委員からは助言を貰っており、サービスの向上に活かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>玄関に意見や要望等を記入できる用紙を用意している他、家族会議でも意見や要望等の確認を行っている。また、家族へのアンケートも実施しており、率直な意見や要望等が出されている。なお、家族から出された要望や苦情は速やかに検討し改善に努め、結果等の報告をしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会には法人として加入している。この地域で年2回実施されている桜祭り等の行事に参加し地域住民との交流に努めている他、ホームに隣接する市道での市の一斉清掃にも参加をしている。また、地域のボランティアが時々野菜を届けてくれることもある。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	優しさをモットーにその人らしく安心して生活が送れることを趣旨とする基本理念である「利用者が主体である生活プランを立てる、自発性を引き出す、自立性を引き出す」をつくりあげている。また、毎月の目標を定め、理念の実現を図るため実践に向けて取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の申し送りやカンファレンスは勿論のこと、全職員参加のホーム会議や各棟毎の会議等で理念について確認し合い、理念の実践に向けて取り組んでいる。また、各棟内にも掲示しており、再確認をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には法人として加入している。この地域で年2回実施されている桜祭り等の行事に参加し地域住民との交流に努めている他、ホームに隣接する市道での市の一斉清掃にも参加をしている。また、地域のボランティアが時々野菜を届けてくれることもある。	○	近隣住民が、気楽に訪問できるような雰囲気作りや自治会等の行事に更に参加する機会を設けるなど、今後も地域と相互交流を深めていく事に期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、評価の意義とねらいについて運営者、管理者、職員等で話し合いを行い、その後、全職員が自己評価に取り組み、最終的に管理者がまとめあげている。外部評価結果における改善点等への取り組みについては、職員間でも常時話し合っており、地域との連携の方法等についての検討を重ねている。		

認知症高齢者グループホームまゆ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、地域包括支援センター職員、家族代表、施設OBの顧問等を構成員として、2か月に1回開催している。会議ではホームの活動状況等の報告を行っている他、家族からは食事の内容等についての意見が出され、各委員からは助言を貰っており、サービスの向上に活かしている。	○	今後は、運営推進会議に自治会の関係者や市担当課職員、議題によっては消防署員や地元警察官にも参加してもらうなどして、地域密着型ホームとして地域との連携を図り、より活発な運営推進会議になることを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当職員からは、制度についての不明点や運営上の疑問点等についてのアドバイスを貰っている。また、介護認定調査委員の意見や情報も参考にして運営に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	殆どの家族が参加する家族会議をホームで年2回開催しており、会議時には食事を取りながら、職員から入居者の暮らしぶりや日常の様子を伝えている。利用料等の支払い方法が銀行振り込みになり来所の機会が減った事から、洗濯を家族にお願いする等、家族の来所の機会を増やすよう工夫をしている。また、広報誌「まゆ通信」を定期的に発行し、ホームでの行事や職員異動等を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見や要望等を記入できる用紙を用意している他、家族会議でも意見や要望等の確認を行っている。また、家族へのアンケートも実施しており、率直な意見や要望等が出されている。なお、家族から出された要望や苦情は速やかに検討し改善に努め、結果等の報告をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人としては、職員の異動については最小限にという考え方である。ホームは3ユニットであり、各入居者の担当職員を決めているが、全体の事が分かるように申し送りなどを工夫している。なお、異動等があった場合には、広報誌等で家族に報告をしている。		

認知症高齢者グループホームまゆ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は人材育成に力を入れており、介護福祉士、ケアマネジャー等の資格取得のための外部研修への参加の他、法人内部の勉強会も開催している。また、内部研修として月1回、同法人の医師が講師となり、医療面での研修会も実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者及び職員は、同じ研修会等に参加した市内の同業者との意見交換や相互訪問を実施し交流を図っている。また、近隣のホームとも職員同士の交流もあり、サービスの質の向上に役立っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	地域包括支援センターや家族からの相談による入居希望が多い。入居する場合には、先ずホームを見学して貰い、必要によっては本人の家庭訪問を行い、生活状況等の把握に努めており、本人が納得してからサービスの提供を開始するようにしている。入居後は不安を与えないよう、職員の支援により徐々に馴染めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は本人や家族から、入居前の生活歴や本人が好きな事や得意な事の把握に努めており、家庭的な雰囲気の中で、食事やお茶、喫茶バイキング、雑巾縫い、編み物、歌等の個人の趣味等に応じて楽しく過ごせる様に支援しているが、一緒に取り組む中で入居者から学ぶ事も多い。		

認知症高齢者グループホームまゆ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしい暮らしが出来るよう希望をその都度聞いている。また、全てにおいて無理強いはせず、松飾りの製作や洗濯物のたたみ等、個々に合った作業リハビリへの参加を促している。意向の表出が困難な入居者には、家族からの協力を得て意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者及びケアマネジャーが本人、家族からアセスメントを行い、サービス担当者会議において各職員の意見や看護師の助言等を参考にして介護計画の作成を行っている。また、職員間でも介護計画の共有が図られている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1回サービス担当者会議を行い、介護計画の定期的な見直しを行っている。入居者の状態に著しい変化があった場合にも、サービス担当者会議を開き、家族にも相談を行い、了解を得たうえで見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	敷地内にある同法人のクリニックでは、定期的に通院できる様になっている他、重度化した場合には隣接する同法人の介護老人保健施設への入所も可能な体制になっており、事業所の多機能性を活かした支援を行っている。また、買い物やかかりつけ医等への通院に家族が対応できない場合は職員が対応しており、家族等へも柔軟な支援を行っている。		

認知症高齢者グループホームまゆ


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	敷地内にある協力医療機関の同法人クリニックにかかりつけ医の変更を希望する入居者が多い。当クリニックの診療科目にない眼科、婦人科等については、本人が希望する医療機関での受診が出来るよう支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における対応に係る指針」がつけられており、敷地内にある同法人クリニックの医師等の指示を得ながら看取りもできる体制になっている。ホームでは実際に何度かの看取りも経験している。家族にも、入居時や重度化した場合や終末期の意向についての確認をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライバシーを尊重し、日々の声かけも「さん」付けにしたり、高齢者なので低い声で呼ぶなど職員間で統一を図っている。また、各部屋に掲示する名前は自分で書いて貰うなどしている。個人記録等の個人情報の取り扱いもステーション内で管理しており、管理には十分に注意をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを大事にし、「待つ・見守る」ケアを目標にして、散歩に職員が同行したり或いはお風呂も入居者の入りたい時間に入浴できるようにするなど出来る限り一人ひとりの希望に合わせながら対応している。		

認知症高齢者グループホームまゆ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設する同法人事業所の管理栄養士が献立を作成しており、食材は農家から直接購入し、ユニット毎に調理をしている。また、入居者も職員と一緒に準備や食事、後片付けを行う等、楽しく食事ができるようにしている。また、外食の希望があれば対応もしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は基本的に決まっているが、その日の体調や希望、気分に合わせてくつろいだ気分で楽しめるように配慮している。また、ホーム内には木製の湯槽がある風呂が一つあり、ここを希望する入居者が多いが、出来る限り対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や得意分野を活かし、野菜作り、雑巾縫いや台所などの仕事をしてもらったり、絵画、習字、俳句や短歌などの得意なこともできるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望を確認しながら、散歩、買い物、外食、図書館等、日常的に外に出る機会をつくっている。また、2か月に1回は行事的な外出の機会も設けている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームでは入居者の自由な暮らしを支えるために、職員の見守りや目配りにより、日中玄関の施錠はしていない。また、やむを得ず棟外に出てしまう入居者には、職員が必ず付き添うように取り組んでいる。		

認知症高齢者グループホームまゆ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、敷地内の同法人事業所との合同の訓練を実施している他、ホーム単独で夜間時の訓練も実施している。また、消防署には日頃から協力を得られるよう働き掛けを行っている他、災害時用の備蓄も行っている。	○	火災や地震等の災害発生時には、法人内だけの対応だけでなく地域住民との協力も不可欠になることから、日頃から、地域との交流を深め、自治会と合同の災害対策訓練の実施等を検討していくことを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設する同法人事業所の管理栄養士から栄養バランスやカロリー等の助言を得ながら、一人ひとりの健康状態や習慣に応じた栄養摂取や水分確保の支援をしており、食事の際に残量を確認したり、夜間は職員が水分を用意するなど、栄養や水分が摂れるよう工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング兼食堂のスペースは広くとられており、ゆったりとしたこの場所で入居者各々がそれぞれの場所で寛ぐことが多く、入居者同士の交流の場にもなっている。共用空間で使用される備品や調度品は家庭的なものを採用しており、居心地の良い家庭的な雰囲気づくりを心がけている。また、共用空間での音や光、換気等は適切に配慮されていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には入居者が使い慣れたテレビ、仏壇、冷蔵庫、炬燵等が自由に持込まれている他、入口のカーテンは入居者の好みの物が掛けられている。入居者一人ひとりの好みに合わせた居室づくりを入居者や家族とも相談しながら支援に努めている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。